

1 共通事項

1. 鉄筋の表示記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
呼び径(d)	10	13	16	19	22	25	29	32	35	38	41
最外径(D)	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46
記号	●	×	◇	●	○	◎	⊗	⊕	⊖	⊗	⊗

2. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1) 鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部位	最小かぶり厚さ	
	一般部 ()は屋外	土に接する部分
床スラブ、屋根スラブ、非耐力壁	30(40)	40
柱、梁、耐力壁	40	50
基礎、基礎梁、耐圧板	—	60
地下外壁、擁壁	40	60
煙突	60	60

- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合、主筋のかぶり厚さが径の1.5倍以上となるように最小かぶり厚さを定める。
- 打増しコンクリートは、スラブは10(mm)、壁は20(mm)とする。
- 打増しコンクリートの厚さは、かぶり厚さには考慮しない。
- 杭基礎の場合、基礎フーチングの鉄筋のかぶり厚さは杭先端からとする。
- 貫通孔に接する鉄筋においても、かぶり厚さを確保すること。

(2) 鉄筋の最小間隔とあき

鉄筋相互のあき a は下記のうち最大のものとする。

(イ) a = 25(mm)

(ロ) a = 1.25 × 粗骨材最大寸法

(ハ) a = 1.5 × d(鉄筋の呼び径)

粗骨材の最大寸法	あきの最小値(mm)								
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35
20(mm)	25	29	33	38	44	48	53		
25(mm)	31								

鉄筋の間隔 P = a + D1 (鉄筋の最外径)

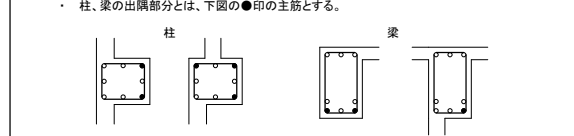
柱及び梁の主筋が二段階以上の場合、下図により鉄筋相互のあきを確保する。

柱、梁の接続部分とは、下図の●印の主筋とする。

3. 鉄筋の折曲げ基準

(1) フック形状(末端部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A, SD345	SD390	SD390	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	柱、梁の出隅部分の重ね継手 柱の出隅の柱頭 煙突の主筋 杭基礎のベース筋
135°		3d以上	4d以上	5d以上	フープ及びスタラップ スパイラル筋 壁筋末端部に使用するD19及びD13 幅止め筋
90°		3d以上	4d以上	5d以上	T形、L形梁のスタラップに用いるキャップタイ スラブ筋、壁筋の末端部 幅止め筋



(2) ベンド形状(中間部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D)			使用箇所
		SD295A, SD345, SD390	SD390	SD390	
90°以下		3d以上	4d以上	—	フープ及びスタラップ スパイラル筋
		4d以上(5d以上)	6d以上	8d以上	その他の鉄筋(スラブ筋、壁筋等)

SD390は、使用箇所がその他の鉄筋の場合に()内を適用する。

4. 継手及び定着

(1) 継手及び定着基準

方法	詳細	使用箇所
フック有り		D16以下の鉄筋
フック無し		
ガス圧接継手	 ・ d2 ≤ d1 ≤ d2 + 5mm ・ ふくらみの直径: H ≥ 1.4 · d2 ・ ふくらみの長さ: L ≥ 1.1 · d2 ・ 偏心量: e ≤ d2 × 1/5 ・ 圧接面のずれ: a ≤ d2 × 1/4 ・ ガス圧接後の曲げ加工は行わないこと。	D19～D32の鉄筋(柱、梁の主筋等)
特殊機械継手		特記による
溶接金網の重ね継手		スラブ筋及び壁筋
直線定着(フック有り)		
直線定着(フック無し)		
溶接金網の定着		スラブ筋及び壁筋

- (*)1 重ね継手で、相互の鉄筋径が異なる場合の重ね継手長さL1は細い方のdによる。重ね継手の長さL1は(2)定着の長さと同じ値とする。
- (*)2 特殊継手は、平成12年建設省告示第1463号「鉄筋の継手の構造方法を定める件」に適合するものとする。使用箇所は特記によることとし、工法は監理者の承諾を得ること。

(2) 定着長さ

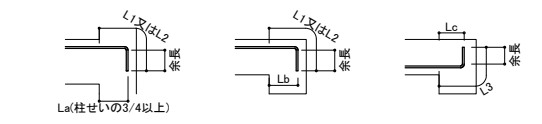
鉄筋種類	Fc (N/mm ²)	フック無し			フック有り	
		L1	L2	L3	L1	L2
SD295A	18	45d	40d	小梁 スラブ 片持小梁/片持スラブ	35d	30d
	21	40d	35d		30d	25d
	24			10dかつ150mm以上	25d	
	27					
	30	35d	30d		25d	20d
SD345	18	50d	40d		35d	30d
	21	45d	35d			
	24	40d	35d	10dかつ150mm以上	30d	25d
	27					
	33	35d	30d		25d	20d

- L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
- フックあり定着の場合は、フック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合、上表の値に5dを加える。
- 重ね継ぎ手、及び定着長さは、施工令第73条第2項による。

(3) 折曲げ定着

鉄筋種類	Fc (N/mm ²)	La	Lb	Lc
SD295A	18	20d	15d	10d
	21以上	15d	15d	
SD345	18, 21	20d	20d	
	24, 27	20d	15d	10d
	30, 33, 36	15d	15d	

- La: 小梁の主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
- Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
- Lc: 小梁及び片持梁の下端筋の投影定着長さ
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



2 杭

1. 場所打ちコンクリート杭

- スペーサー: FB-6 × 50 平面上に4ヶ所以上 @ 3,000
- 補強リング: FB-9 × 65 @ 3,000以下かつ1節につき3ヶ所以上
- 鉄筋のかぶり厚さは100mmとする。
- 主筋の重ね継手およびフーチングへの定着長さは、45d以上とする。
- フープは正しく円形に加工し、片面10d以上のフレアグループアーク溶接にて接合する。

2. 既製杭

(1) PHC杭又はPRC杭

- 適用する工法、補強筋の径及び本数は構造図による。
- 補強筋にはフックをつけない。

3 基礎

1. 基礎フーチングの納まり

(1) 独立基礎、連続基礎

A. はかま筋が必要な場合

B. はかま筋が必要な場合

(2) 杭基礎

A. 一本杭の場合

B. 二本杭以上の場合

2. 基礎フーチングと基礎梁の接合部

(1) 0 < D ≤ 500 の場合

(2) 500 < D ≤ 1,000 の場合

3. 耐圧スラブ(べた基礎)の納まり

(1) 最終端

(2) 連続端

(2) 鋼管杭

補強筋の径及び本数は構造図による。

d(mm)	19	22	25	29
S(mm)	6	8	9	11

4 基礎梁

1. 継手位置、定着及び余長

- 主筋の継手位置は下図の ⊘ 内とする。
- 基礎梁の連続端で柱に接する梁筋が同数の場合、主筋は柱をまたいで引き通す。柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
- 梁主筋のみ込み長さは柱せいの3/4倍以上とする。

(1) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合

(2) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合

(3) 連続基礎、べた基礎で地反力を受ける場合

2. スターラップ

(1) 形状及びサブスターラップ(中子筋)

A. 梁せいが1,500mm未満の場合 → 6.2-(1)、(2)による。

B. 梁せいが1,500mm以上の場合

- 梁の上下にスラブが付く場合、ホおよびの形状も可能とする。
- ホは、90°フック(◎印)側にスラブが付く場合のみ可能とする。
- へで、重ね継手の代わりに特殊継手を用いる場合は監理者の承諾を得ること。

3. 腹筋及び幅止め筋 → 6.3による。

4. 打増し補強筋 → 6.4による。

5. 杭芯ずれに対する補強方法(例)

-eの場合、補強筋は左右逆配筋とする。

4 杭芯(杭が複数の場合は、フーチングの図芯)

実際の補強方法は、監理者の指示による。

- e ≤ 100mm の場合、補強は不要とする。
- 耐力壁付きの家については、原則として補強は不要とする。
- 下表の範囲を超える場合は、監理者に確認を得ること。

本数	径	偏心距離(mm)	A部分		B部分		せん断補強
			補強筋 L(mm)	補強筋 L(mm)			
		100 < e ≤ 200					
		200 < e ≤ 300					
		100 < e ≤ 200					
		200 < e ≤ 300					
		100 < e ≤ 200					
		200 < e ≤ 300					

工事名称	妙令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北	図面名称	RC標準図(1)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	-
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S02
検査	設計者	名称 (有)金箱構造設計事務所	
	資格者氏名	金箱 温春	
	登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号	
	所在地	一級建築士事務所 東京都港区麻布 第36591号	

5 柱

1. 継手位置、定着及び余長、フープの割付け

- 主筋の継手位置は下図の斜線内とする。
- 柱頭定着長さL2が確保できない場合の定着方法は、構造図の特記による。
- 柱頭の主筋のうち出隅に位置するものには180°フックを設ける。
- はフープの割付け基準(第一帯筋)を示し、梁上端筋の直上及び下筋筋の直下に設ける。
- (*) $e \leq D/6$ の場合、柱主筋の折曲げ基点は梁主筋との交点とする。フープは、一般部と同径、同材質のものを2本重ねる。

2. フープ

- フープの形状は構造図の特記による。特記がない場合はH形とし、135°フックが困難な場合はW-1形とする。
- フック及び継手位置は上下階で同一箇所に集中させず、交互にずらす。
- SP形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻き以上の巻巻きを行う。

(1) H形(フック先曲げ) (2) W-1形(溶接閉鎖)

(3) SP形(スパイラル)

(4) サブ・フープ(中子筋)

3. 打増し補強筋

- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。
- (1) $a1, a2 < 70mm$ の場合: 不要
- (2) $70mm \leq a1, a2 \leq 200mm$ の場合: D16, 鉄筋同士のあき $P \leq 200mm$
- (3) $a1, a2 > 200mm$ の場合: 柱主筋と同径、鉄筋同士のあき $P \leq 200mm$
- 取り合う梁及び壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

6 梁

1. 継手位置、定着及び余長、スターラップの割付け

- 主筋の継手位置は下図の斜線内とする。
- 下端筋は上向き定着とする。やむを得ず下向き定着する場合は、監理者の承諾を得ること。
- 梁の連続端では、主筋は柱をまたいで引き通すことを原則とする。柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。やむを得ない場合のみ、柱面から定着長さL2を確保して反対側の梁に定着する。
- 特記無き場合、梁主筋のみ込み長さは柱せい h の3/4倍以上とする。
- はスターラップの割付け基準を示し、第一スターラップは柱側面を基準に割付けする。
- 特記無き場合、梁ハンチの傾斜は1/4とする。
- (*)ハンチの折曲げ基点には、一般部のスターラップと同径、同材質のものを2本重ねる。

(1) 大梁

(2) 小梁

- 連続梁
- 単純梁
- 片持ち梁

2. スターラップ

(1) 形状

- 90°フック(○印)は、スラブ側のみ設けて良い。それ以外は135°フックとする。
- イの135°フックの位置は交互とする。
- ロニはスラブと同時にコンクリートを打ち込む場合に用いて良い。

(2) サブ・スターラップ(中子筋)

- 末端は原則として135°フックとするが、スラブが付く側の90°フックとしても良い。

(3) 柱面と梁面が同一になる場合の納まり

- 柱主筋だけスターラップ幅を狭めて加工する。

3. 腹筋及び幅止め筋

梁せい(mm)	段数	腹筋	幅止め筋
$D < 600$		不要	
$600 \leq D < 900$	1	2-D10	D10@1,000mm $D \geq 300 \times 2d$
$900 \leq D < 1,200$	2	4-D10	
$1,200 \leq D < 1,500$	3	6-D10	
$1,500 \leq D < 1,800$	4	8-D10	

- 梁せいが上表を超える場合、梁せい300mmごとに1段(2-D13)を加える。
- 腹筋端部は、梁の第一スターラップから30mm程度つきだしてスターラップに結束する。

4. 打増し補強筋

- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。
- (1) $a < 70mm$ の場合: 不要
- (2) $70mm \leq a \leq 200mm$ の場合: D16, 鉄筋同士のあき $P \leq 150mm$
ただし、打増し部に耐力壁(耐震壁、土圧壁)が取付く場合で、壁筋がD19以上の場合は壁筋と同径以上とする。
- (3) $a > 200mm$ の場合: 梁主筋と同径、鉄筋同士のあき $P \leq 150mm$
- 梁の打増し部分に取り合う梁、壁、スラブの鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。

7 壁

1. 継手及び定着

- 重ね継手長さは、耐力壁(耐震壁、土圧壁)はL1、その他はL2とし、定着長さはL2とする。
- 幅止め筋は、縦横ともD10@1,000mmとする。

(1) 柱への定着

(2) 梁への定着

(3) スラブへの定着(非耐力壁)

(4) 壁の交差部及び端部

2. 地下外壁の継手及び定着

- 地下外壁の継手位置は下図の斜線内とする。
- 外側縦筋は基礎梁主筋の内側に納め、約1,000mmピッチごとに耐圧板上端もしくは基礎梁打継面まで下げる。中間階では通し筋とする。

3. 打増し補強筋

- (1) $a < 50mm$ の場合: 不要
- (2) $50mm \leq a < 200mm$ の場合: 縦筋はD10@200, 横筋はD10@横筋と同ピッチ
- (3) $200mm \leq a$ の場合: 縦筋、横筋とも壁筋と同径、同ピッチ

8 スラブ

1. 定着

- スラブ筋のふり厚さの確保は、バーサポート(@600以下)によること。

(1) 周辺固定スラブ

(2) 片持ちスラブ

2. スラブ段差の納まり

(1) $H \leq 70mm$ の場合

(2) $70 < H \leq 150mm$ の場合

(3) $150 < H \leq 300mm$ の場合

(4) $300mm < H$ の場合: 構造図の特記により小梁を設ける。

3. 出隅、入隅部分の補強

(1) 片持ちスラブ

- 出隅部補強筋はスラブ主筋と同径、同ピッチとし、ダブル配筋とする。
- 出隅受け部補強筋はスラブ主筋と同径@100mmピッチとし、ダブル配筋とする。

(2) 屋根スラブ

- 補強筋を上筋筋の下側に配置する。

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山園立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事	図面名称	RC標準図(2)
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北	縮尺	-
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	図面番号	2S03
公園名称	妙高戸隠連山園立公園	設計者	名称 (有)金箱構造設計事務所
検査		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号
		所在地	一級建築士事務所 東京都中央区 第36591号

9 開口補強

1. 梁貫通孔

(1) 貫通孔の径、位置、配置

- 孔径は、梁せいDの1/3以下とする。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置の限度dは下図の通りとする。
梁中央下端は梁下端よりD/3の範囲に設けてはならない。
- 孔の左右方向の位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)面から原則として1.5D以上とする。
- 孔が並列する場合の中心間隔(水平距離)は、隣接する孔径の平均値の3倍以上とする。
孔が円形でない場合は、孔の対角距離を用いることとする。

(2) 補強要領

- 補強方法は、原則として下図の方法とする。これ以外の配筋要領とする場合、もしくは、既製品による補強を行う場合は監理者の承諾を得ること。
- 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、原則として主筋の内側とする。
- 孔径が梁せいDの1/10以下かつ150mm未満のものは、補強を省略することができる。
- 上下縦筋は閉鎖型とする。

記号	貫通孔径 R(mm)	符号	斜め筋	縦筋	横筋	上縦筋 下縦筋	箇所数
H1	60	-	2-1-D16	2-1-D16	なし	なし	4
H2	-	-	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	-
H3	-	-	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	-
H4	-	-	4-2-D16	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	-
H5	-	-	4-2-D16	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	-
H6	-	-	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	-
H7	-	-	4-2-D22	4-2-D22	4-2-D22	4-2-D22	-
H8	-	-	4-4-D25	4-2-D22	4-2-D22	4-2-D22	-

(2) 補強要領

A 開口部の最大径が200mm以下の場合

- 単独の開口(孔径の3倍以上離れている場合も含む)で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口を避けて配筋できる場合は補強を省略できる。この場合、スラブ筋をずらしても良い。

複数の開口を連続して設けた場合、開口群を一つの開口と見なして補強筋を設置する。

B 開口部の最大径が700mm以下の場合

- 開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13シングルを上下筋の内側に配筋する。

10 設備配管

1. 柱・梁

- 柱への打込みは行わないこと。コンセント・ボックスなどを設置する場合は柱断面を打増し、5.3に従って補強筋を配筋すること。
- 梁に打込み場合は、事前に監理者の承諾を得ること。

2. スラブ

- 上下スラブ筋の間に通す。
- スラブ筋と平行に沿わせないこと。
- スラブ内に配管が集中する場合は、事前に監理者に報告の上、協議すること。

3. 壁

- ダブル配筋の場合、壁筋の内側に通す。
- シングル配筋の場合、壁の中央に通す。

2. 壁開口

- 補強筋の径、本数は構造図による。
- 開口部の最大径が200mm以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は補強を省略できる。
- e \ge 200mmの場合、破線で示した補強筋は不要とする。

3. スラブ開口

(1) 開口の範囲

- スラブの開口可能範囲は、原則として下図の斜線部分とする。
- 施工時に一時的に設ける開口(ダマ穴)は、原則として設けないこととするが、やむを得ず設ける場合は下図に準じて配置の計画をし、監理者の承諾を得ること。

11 雑配筋詳細

1. 基礎スラブピッチ

釜場記号	位置		大きさ			スラブ厚 t(mm)
	軸	通り	B(mm)	D(mm)	H(mm)	

2. 置きスラブと基礎梁の接合(シアコネクター)

3. 土間スラブの補強

4. コンクリート・ブロック受け

- 水平、垂直とも同様とする。

9. 階段

(1) 一方スラブ階段

(2) 二辺固定スラブ階段

(3) 片持ちスラブ階段

階段記号	厚さ		配筋			
	D1(mm)	D2(mm)	主筋 A	主筋 B	配力筋	壁補強筋

5. 機械基礎

A形

B形

基礎記号	位置		形状	大きさ		
	軸	通り		B(mm)	D, L(mm)	H(mm)

6. バラベット

7. 手すり

8. 耐震スリット(完全絶縁型)

- スリットの位置は構造図の表記による。

水平スリット

鉛直スリット

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山園立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北	図面名称	RC標準図(3)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	-
公園名称	妙高戸隠連山園立公園	図面番号	2S04
検査	設計者	名称	(有)金箱構造設計事務所
	資格者氏名	金箱 温春	
	登録番号	第一級建築士 大匠登録 第122854号	
	所在地	一級建築士事務所 東京都中央区 第36591号	

8 木工事

① 一般事項

- 木材・接合金物等の製作にあたり製作要領書を作成して監理者の承諾を受けること。
- 工事に先立ち、必要な製作図と共に施工要領書を作成して監理者の承諾を受けること。
- 各工程の施工終了後はすみやかに施工記録を作成して監理者に提出すること。

② 木質材料

● 構造用製材

- 製材の日本農林規格(平成19年農林水産省告示1083号)第5条または第6条に準ずること。
- 乾燥の際割れを行う。見えがかり部、相欠き部材、構造用合板の釘接合面には行わない。
- 含水率は平均含水率とし、15(%)以下(D15)とすること。
- 構造用製材の種類、強度、区分等は下表による。ただし、材の曲がりについては、下記にかかわらず目視等級1級相当とする。

樹種	等級区分	種別	等級	使用箇所

● 構造用集成材、構造用単板積層材

- 集成材の日本農林規格(平成19年農林水産省告示第1152号)第5条および第6条、単板積層材の日本農林規格(平成20年農林水産省告示第701号)第4条に準ずること。
- JAS品質検査記録証明書を提出すること。
- ラミナは、全数グレーディングマシン(MGFS)による機械的等級区分されたラミナ材(MSR材)を使用する。また、ラミナの縦継ぎは垂直フィンガージョイントとし、フィンガー長さ18(mm)以上とする。ラミナの乾燥は高温高湿脱脂乾燥方式とし、含水率15(%)以下とする。
- ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆
- 構造用集成材、構造用単板積層材の種類、強度、区分等は下表による。

樹種	等級区分	等級	材面品質	使用箇所

● 構造用合板

- 合板の日本農林規格(平成20年農林水産省告示第1751号)第6条に準ずること。
- 接着等級 特類(塵外等、常時湿潤状態にある場所)、I類(その他)
- 強度等級 2級 C-D
- ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆

③ 接合材料

● 釘

- JIS A 5508 に適合すること。
- 材質 鉄(亜鉛メッキ処理したもの)またはステンレス
- 種類
 - N 釘
 - CN 釘 耐力壁、準耐力壁、床板、屋根板
 - ZN 釘 Cマーク、Zマーク金物
 - ZS 釘 Zマーク金物
 - ZF 釘
 - GNF 釘 プラスターボードによる耐力壁
 - SN 釘 シーシングボードによる耐力壁

○ 木ネジ

- JIS B 1112(十文字孔付き木ネジ)もしくは JIS B 1135(十文字孔付き木ネジ(皿木ネジ、丸皿木ネジ))に適合すること。

● ボルト・ナット

- JIS B 1180 に適合する以下のいずれかを使用すること。ただし、せん断ボルトには必ず呼び径六角ボルトを使用する。
- 呼び径六角ボルト
- 有効径六角ボルト
- 全ネジ六角ボルト

○ コーチボルト(ラグスクリュー)

- JIS G 3507 に適合すること。
- 材質 SWRH10R

○ ドリフトピン

- 材質 SS400

● 産金

- JIS G 3131 に適合すること。
- ボルトに使用する産金は原則として丸産金とし、寸法は下記による

ボルト	M8	M10	M12	M16	M20	M24
引張ボルト	厚さ 4.5 直径 45	4.5 60	6.0 70	9.0 90	9.0 120	13.0 140
せん断ボルト	厚さ 3.2 直径 30	3.2 35	3.2 40	4.5 60	6.0 70	6.0 80

● アンカーボルト

- JIS G 3101 に適合すること。
- 材質 SS400 同等以上

● 既製金物

- 既製金物及び接合具は以下のいずれかを使用する。
- (財)日本住宅・木材技術センター「軸組工法用金物規格」による Zマーク金物
- (財)日本住宅・木材技術センター「3階建て木造住宅用金物規格」による Z、Cマーク金物
- 上記金物と同等以上の性能を有する同等認定金物(Dマーク金物)又は、性能認定金物(Sマーク金物)を使用する場合は、監理者の承諾を得ること。

○ その他の金物

- JIS G 3101 等を準用すること。
- 材質 SS400 同等以上
- 防錆処理として溶融亜鉛メッキを施す。

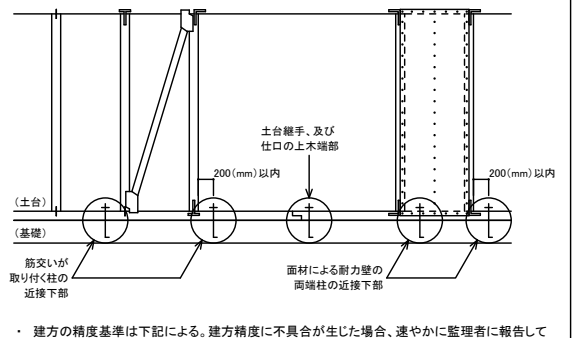
④ 製作、加工

- 加工寸法は以下を標準とする。
- 構造用製材
 - 断面寸法 ±1.5(mm)以下
 - 材長 在来軸組工法の継手・仕口の場合：±1.5(mm)以下
ボルト接合の場合：±5.0(mm)以下
 - 直角 直角との歪み ±1/100 以下
- 集成材、構造用単板積層材
 - 短辺 ±1.5(mm)以下
 - 長辺 ±1.5(%)かつ±5.0(mm)以下
 - 材長 ±5.0(mm)以下
- 接合具の先孔径、深さ
 - 木ネジ 針葉樹の場合、主材：0.6d、側材：0.8d
広葉樹の場合、主材：0.8d、側材：1.0d
 - ボルト M12 以下：d±1.5(mm)以下
M16 以上：d±2.0(mm)以下
 - コーチボルト 2段受けを原則とする。胴部の先行孔は同寸、ネジ部は部材の樹種に応じて40〜75(%)とする。深さはネジ部と同寸とする。
 - ドリフトピン d±0.3(mm)
- 金物
 - 幅、長さ ±1.0(mm)以下
 - ボルト孔径 ±1.0(mm)以下
 - ボルト孔芯距離 ±1.0(mm)以下

- 表面仕上げの程度は要求に応じた仕様とする。
- 面取りの程度は要求に応じた仕様とする。

⑤ 建方

- アンカーボルトの設置
 - 芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせ適切な機器等で正確に行う。
 - アンカーボルトは鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠等に固定してコンクリートの打設を行う。
 - アンカーボルトは二重ナットとする。
 - 土台の孔受けは、コンクリート打設後にボルトの通り芯からのずれを計測してから行う。ずれの許容値は±3.0(mm)とする。
 - 埋込み位置および埋込み長さは下記による。
 - 径、本数は構造図による。
 - 埋込み位置は構造図による。特記無き場合、耐力壁および土台の継手、仕口以外での埋込み間隔は2.7(m)以内(3階建ての場合は2.0(m)以内)とする。
 - 埋込み長さ M12：250(mm)以上、M16：380(mm)以上
- 建方の精度基準は下記による。建方精度に不具合が生じた場合、速やかに監理者に報告して対応策を協議する。
 - 建物の倒れ e≤H/2,500 + 10(mm)かつ e≤50(mm)
 - 建物の湾曲 e≤H/2,500(mm)かつ e≤25(mm)
 - 横架材の水平度 e≤L/700 + 5(mm)かつ e≤15(mm)
 - 柱据付け面の高さ及び位置
 - 高さのずれ 基準高さから±3.0(mm)以下
 - 通り芯からのずれ ±3.0(mm)以下
 - 階高 ±5.0(mm)以下



・ 確認・検査項目

- 書類確認
 - 施工図(プレカット図を含む)
 - 材料規格証明書
 - 輸送計画書
 - 建方計画書
- 立会い検査
 - アンカーボルト施工時検査
 - 接合部金物施工時検査
 - 地組み時検査
 - 建方検査(軸組、耐力壁等の施工完了時)

⑥ 接合

● 釘接合

- 釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように間隔を大きくとる。
- 釘の長さは、原則として材厚の2.5倍以上とする。
- 1箇所釘の本数は2本以上とする。
- 釘に錆が生じる恐れがある場合は、適切な防錆処理を施す。
- 自動釘打ち機を使用する場合は、面に釘がめり込まないようにする。
- 構造耐力上耐力壁とする場合の釘打ち方法は、昭和56年建設省告示第1100号による。
- 構造耐力上主要な部分において、釘を引抜き方向に抵抗させない。
- 小口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

○ 木ネジ接合

- ねじ込みには適切な道具を使用し、ハンマーなどで打ち込まないこと。
- 構造耐力上主要な部分において、木ネジを引抜き方向に抵抗させない。
- 小口面に打たれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。

● ボルト接合

- 締付けに先立ち、ボルトの長さ・材質・呼び径・産金等が施工所に適したものであることを確認する。
- ボルト接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、ボルト本数を適切に増加する。
- ボルトの締付けは産金が部材へめり込み程度とし、めり込み音が発生した時点で終了する。
- 締付けを完了した引張ボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。
- 産金のめり込みの程度及びねじ山の出し、目視により確認する。
- 一度締め付けたボルトについても、工事期間中の木材の乾燥収縮等によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行うこと。

○ コーチボルト(ラグスクリュー)接合

- コーチボルトの配置間隔、線距離、端距離、使用する産金は同じ胴部径のボルトに準ずる。
- 先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んでほならない。
- 構造耐力上主要な部分において、コーチボルトを引抜き方向に抵抗させない。

● ドリフトピン接合

- ボルトやコーチボルトを併用し、ドリフトピンの変形にもなる部材の開きを防止する。
- 先孔に密着させる。
- 一度締め付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

○ ジベル接合

- 木部材は、接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点に注意し、影込み、打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。
- 接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

○ 接着接合

- 接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
- 接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合、その作業条件を標準とする。

● 既製金物の接合

- 羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間が密着するように締め付ける。

⑦ 耐久性(防腐・防蟻・耐蝕処理)

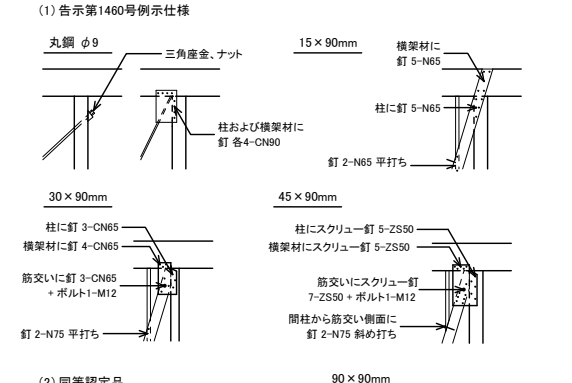
- 構造耐力上主要な部分である柱、筋かい及び土台のうち、地から1m以内の部分には、有効な防蟻措置を講ずるとともに必要に応じて、しりあろその他の虫による害を防ぐための措置を講じる。
- 木材の防腐・防蟻処理は下記のいずれかによる。
 - 高耐久材の使用(製材の心材、心持ち材または集成材とする)
- 工場処理(現場の加工、切断、穿孔箇所等は、現場処理に準じる)
 - 処理剤
 - JAS保存処理剤 [○ K2 ● K3 ○ K4]
 - AO認証材保存処理剤 [○ 1種 ○ 2種 ○ 3種]
- 現場処理(給排水用塩化ビニル管に接する部分は、管を保護する)
 - 処理方法 [● 塗布 ○ 取付け ○ 浸漬]
 - 日本しりあろ対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。
- ・ 土壌処理は下記いずれかによる。
 - 防蟻薬剤による処理
 - 日本しりあろ対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。
 - 防蟻薬剤による処理と同等以上の対策
 - 対策方法 ベタ基礎
 - 防蟻処理の省略(北海道、東北地方、北陸地方)

⑧ 耐力壁の施工方法

○ 筋交い

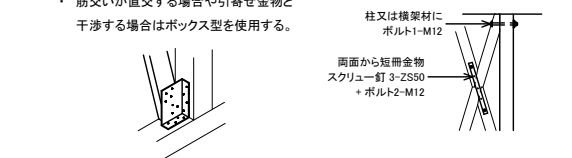
- 筋交い端部の接合は、平成12年建設省告示第1460号例示仕様または同等認定品とする。
- 筋交いが間柱と取合う部分は筋交いを通し、間柱を筋交いの厚さだけ欠き取るか分割する。
- たすき掛け筋交いの交差部は、
 - 幅90(mm)未満の場合、筋交い同士をずらして双方を通して交差部にN75釘両面打ち
 - 幅90(mm)以上の場合、一方を通して他方は筋交い当たり傾ぎ大入れ、両面から短冊金物 スクリュー釘(3-ZS50)+ボルト(2-M12)止め

(1) 告示第1460号例示仕様



(2) 同等認定品

- 筋交いが直交する場合や引寄せ金物と干渉する場合はボックス型を使用する。

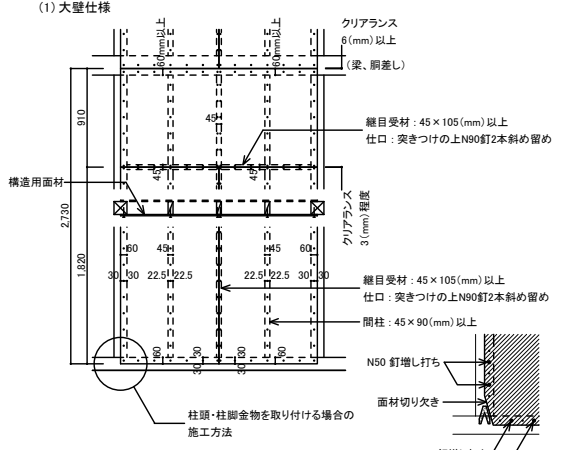


● 構造用面材

- 構造用面材は3×6版 縦、横貼りを基本とする。
- 構造用面材の継手は突きつけ継ぎとし、継目下に所定の受け材を設ける。
- 継目のクリアランス幅は3(mm)程度とする。
- 間柱および網差の断面寸法は、45×90(mm)以上とする。
- 構造用面材は、釘で構造部材に確実に留め付ける。
- 釘打ち間隔および釘の種類は、面材の種類に応じて下表の通りとする。

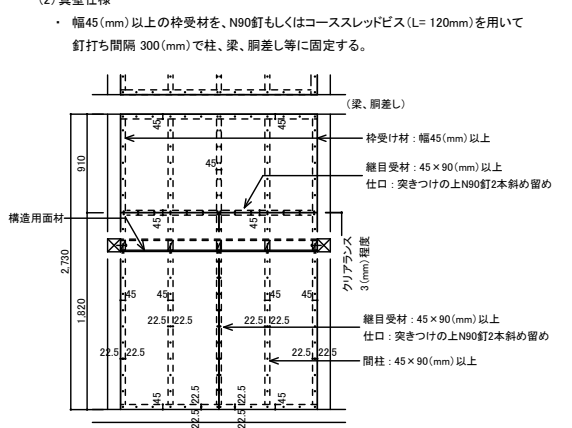
構造用面材	材料規格	最小厚さ	釘の種類	間隔
● 構造用合板	JAS 15-233	12(mm)	N50, CN50	150(mm)
○ パーティクルボード	JIS A 5908	12(mm)		
○ 構造用パネル	JAS 62-360	—		
○ ハードボード	JIS A 5905	5(mm)	GNF40, GNC40	150(mm)
○ 硬質木片セメント板	JIS A 5404	12(mm)		
○ プラスターボード	JIS A 6901	12(mm)		
○ シーシングボード	JIS A 5905	12(mm)		

(1) 大壁仕様



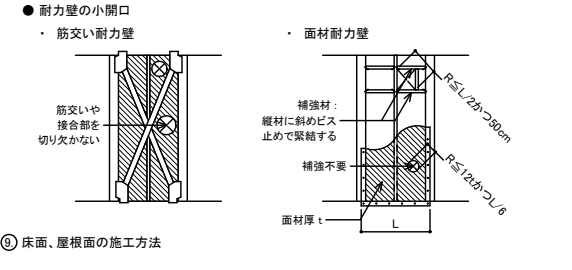
(2) 真壁仕様

- 幅45(mm)以上の枠受材を、N80釘もしくはコーススレッドビス(L=120mm)を用いて釘打ち間隔300(mm)で柱、梁、網差等に固定する。



● 耐力壁の小開口

- 筋交い耐力壁
- 面材耐力壁



⑨ 床面、屋根面の施工方法

○ 火打ち

- はり、網差し、桁等との仕口は傾ぎ大入れとし、六角ボルト締めとする。ただし、横架材の上端もしくは下端に取り付ける場合は遮り隠掛けとし、六角ボルト締めとする。
- 鋼製火打ちは、Z、Cマーク同等認定品を使用すること。

● 構造用面材

- 床下地板に構造用面材を用いて、火打ちを省略した床床とする場合に適用する。
- 床下地板の大きさは3×6版とし、こま切れたものは使用しない。
- 構造用合板の長手方向を根太と直交させ、かつ、千鳥はりとする。継手は根太上で突きつけ継ぎとし、継目下に断面寸法45×45(mm)以上の受け材を設ける。
- 柱と床はり・網差し同士もしくははり・網差しの仕口は、金物、ボルトにより緊結補強する。
- 構造用面材は、釘で構造部材に確実に留め付ける。釘打ち間隔および釘の種類は面材の種類に応じて下表の通りとする。

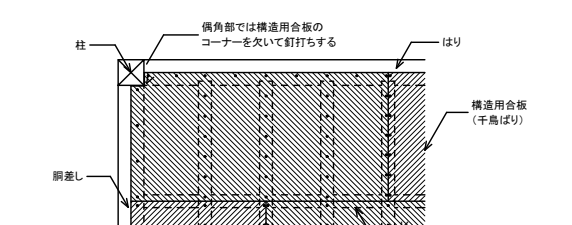
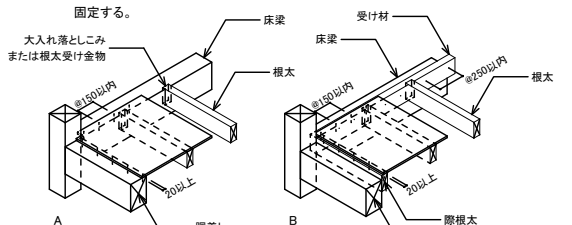
構造用面材	材料規格	最小厚さ	釘の種類	間隔
● 構造用合板	JAS 15-233	12(mm)	N50, CN50	150(mm)
○ パーティクルボード	JIS A 5908	15(mm)		
○ 構造用パネル	JAS 62-360	—		

A. 根太とはり、網差しの上端高さが同じ場合

- 根太間隔は500(mm)以下とする。
- 根太は床梁、網差しに大入れ落し込みN75釘2本を斜め打ちとするか、根太受け金物等を用いて床梁、網差しに留めつける。
- 構造用面材は、はり、網差しに20(mm)以上乗せて釘を平打ちして直貼りする。
- 隅角部では柱があるため構造用合板のコーナー部を欠いて釘打ちする。

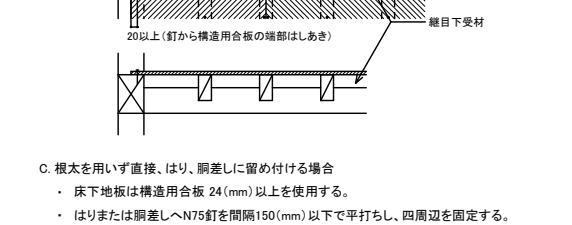
B. 根太とはり、網差しの上端高さが異なる場合

- 根太間隔は300(mm)以下とする。
- はり、網差しに直交する根太は遮り隠掛けとし、N75釘2本を斜め打ちとする。
- はり、網差しの際に、際根太または根太と同寸以上の受け材をN90釘を間隔250(mm)で千鳥に平打ちして添えつける。
- 構造用面材は、際根太または受け材に20(mm)以上乗せて釘を平打ちして四周辺を固定する。



C. 根太を用いず直接、はり、網差しに留め付ける場合

- 床下地板は構造用合板24(mm)以上を使用する。
- はりまたは網差しへN75釘を間隔150(mm)以下で平打ちし、四周辺を固定する。



工事名称	令和8年度妙高戸隠連山園立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北	図面名称	木標準図(1)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	-
公園名称	妙高戸隠連山園立公園	図面番号	2S05
検査	設計者	名称	(有)金箱構造設計事務所
	資格者氏名	金箱 温春	
	登録番号	一級建築士 大臣登録 第122854号	
	所在地	一級建築士事務所 東京都中央区 第36591号	

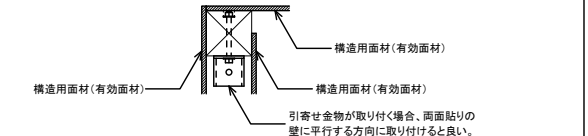
● 大引、床束による床組み

- 大引きの断面寸法は、90×90(mm)を標準とする。
- 大引きと土台の仕口は、大入れ蟻掛け、腰掛け、または乗せ掛けとし、いずれもN75釘2本斜め打ちとする。
- 大引きと柱の仕口は、添木を柱に取り付けたのち乗せ掛けとするか、柱に大入れとする。いずれもN75釘2本斜め打ちとする。
- 床束の断面寸法は、90×90(mm)を標準とする。
- 床束と大引きの仕口は、突き付けにしてN75釘を斜め打ちの上、かすがい打ちとする。
- 床束の下部は、東石に突き付けとし、根がらみ貫を添え付け釘打ちとする。
- プラスチックまたは鋼製束とする場合は、特記による。

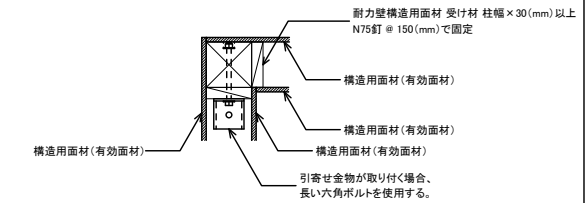
⑩ 耐力壁および床面の納まり

(1) 面材貼り耐力壁交差部の納まり(平面)

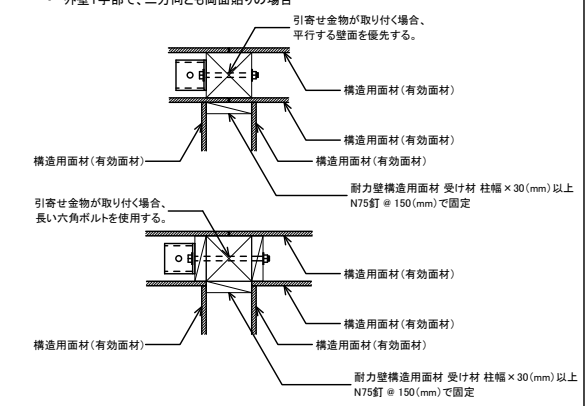
- 外壁隅角部で、一方が両面貼り、他方が片面貼りの場合



- 外壁隅角部で、二方向とも両面貼りの場合

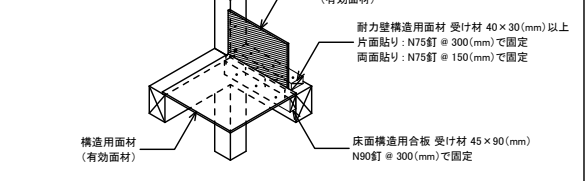


- 外壁T字部で、二方向とも両面貼りの場合

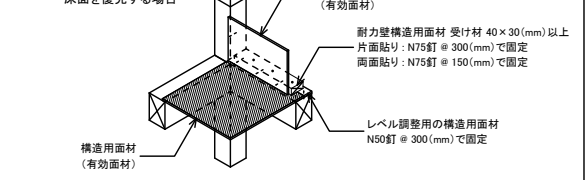


(2) 面材貼り耐力壁と床面の納まり

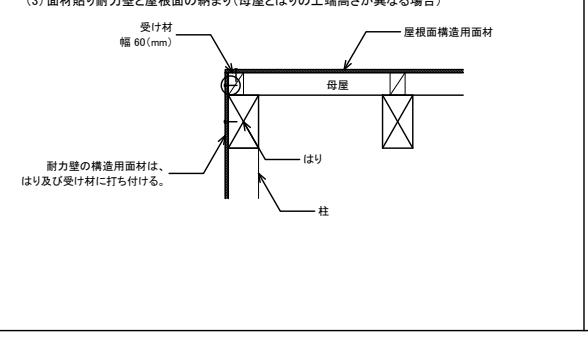
- 壁面を優先する場合



- 床面を優先する場合



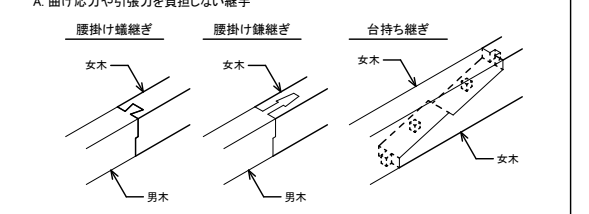
(3) 面材貼り耐力壁と屋根の納まり(母屋とはりの上端高が異なる場合)



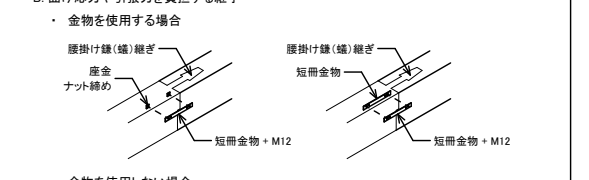
⑪ 在来軸組工法接合部の標準仕様

(1) 継手

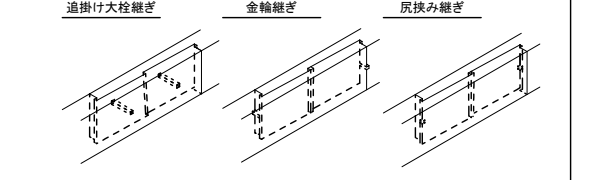
- A. 曲げ応力や引張力を負担しない継手



- B. 曲げ応力や引張力を負担する継手



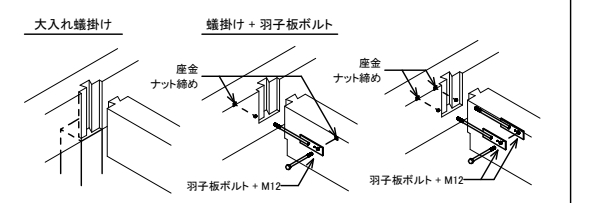
- 金物を使用しない場合



(2) 横架材同士の仕口

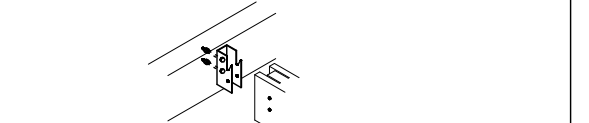
- A. (大入れ)蟻掛け

- 男木せいが女木の2/3以下か仕口直下に柱がある場合は、大入れ蟻掛けとしてよい。
- 上記以外の場合は、男木せいの2/3程度の顎をかけて、羽子板ボルトを併用する。



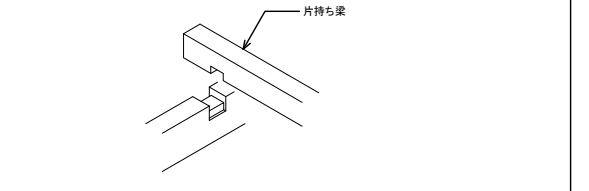
- B. 梁受け金物

- Z、Cマーク同等認定品を使用し、適用面所は特記による。



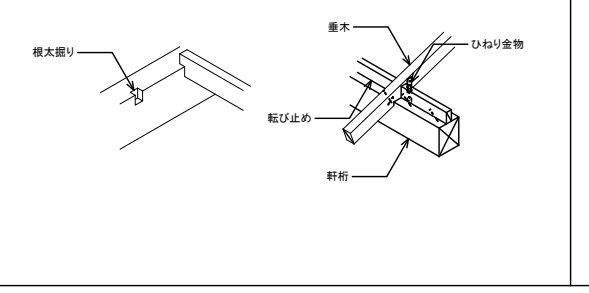
- C. 渡り懸掛け

- 片持ち梁とする場合は、レベル差を設けて渡り懸掛けとする。
- 羽子板ボルト等を併用すること。



- D. 根太、垂木と横架材

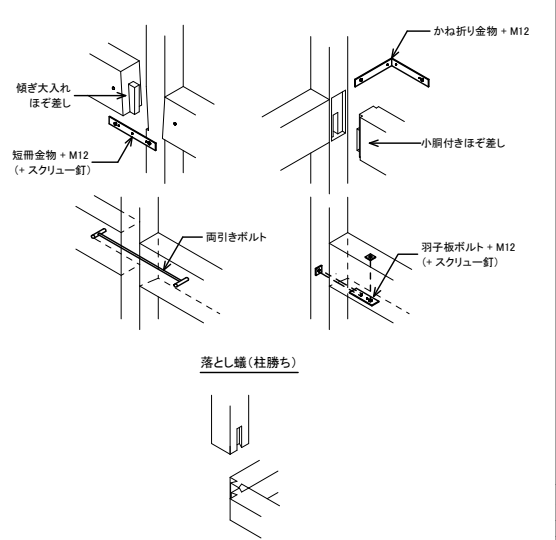
- 落とし込み根太: 大入れ、根太掛け + 斜め釘、根太受け金物
- 半突き根太: 横架材に大入れ懸掛け + 斜め釘
- 転ばし根太(根太が直角断面の場合): 横架材に脳天釘止め
- 転ばし根太(根太が縦長角断面の場合): 斜め釘2本 + 転び止め
- 垂木: 横架材に垂木道を廻り、転ばし根太と同様に止める。
- 垂木には、風の負圧に対する補強としてひねり金物を取り付ける。



(3) 柱と横架材の仕口

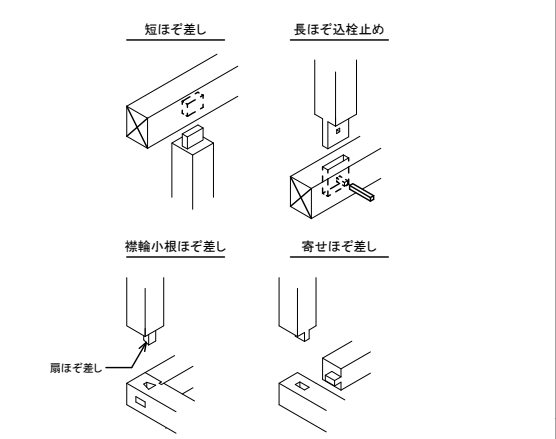
- A. 柱通しの場合

- 小胴付きほぞ差し、傾き大入れほぞ差し、梁受け金物のいずれかとする。
- 梁受け金物以外の場合は、短冊金物やかね折り金物等を併用すること。
- 梁受け金物は、Z、Cマーク同等認定品を使用すること。
- 土台と柱の接合部は、柱撓みの場合は落とし蟻とする。



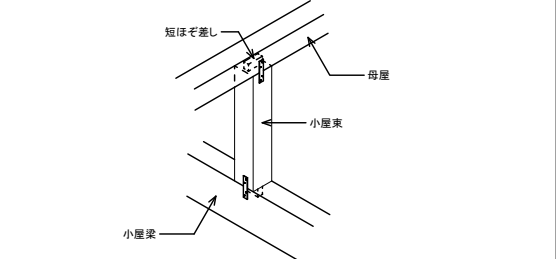
- B. 横架材通しの場合

- 柱の上下端は短ほぞ差し又は長ほぞ差止めとする。
- 土台同士は襟輪小根ほぞ差しまたは寄せほぞ差し、柱脚部は短ほぞ差し又は寄せほぞ差しとする。
- 柱頭・柱脚接合部金物は、平成12年建設省告示第1460号の例示仕様またはZ、Cマーク同等認定品とする。告示の例示仕様は右表による。



- C. 小屋梁の上下端

- 短ほぞ差しまたは長ほぞ差込み止めとする。
- 短ほぞ差しの場合、かすがい2本、ひら金物、山形プレートのいずれかで補強する。

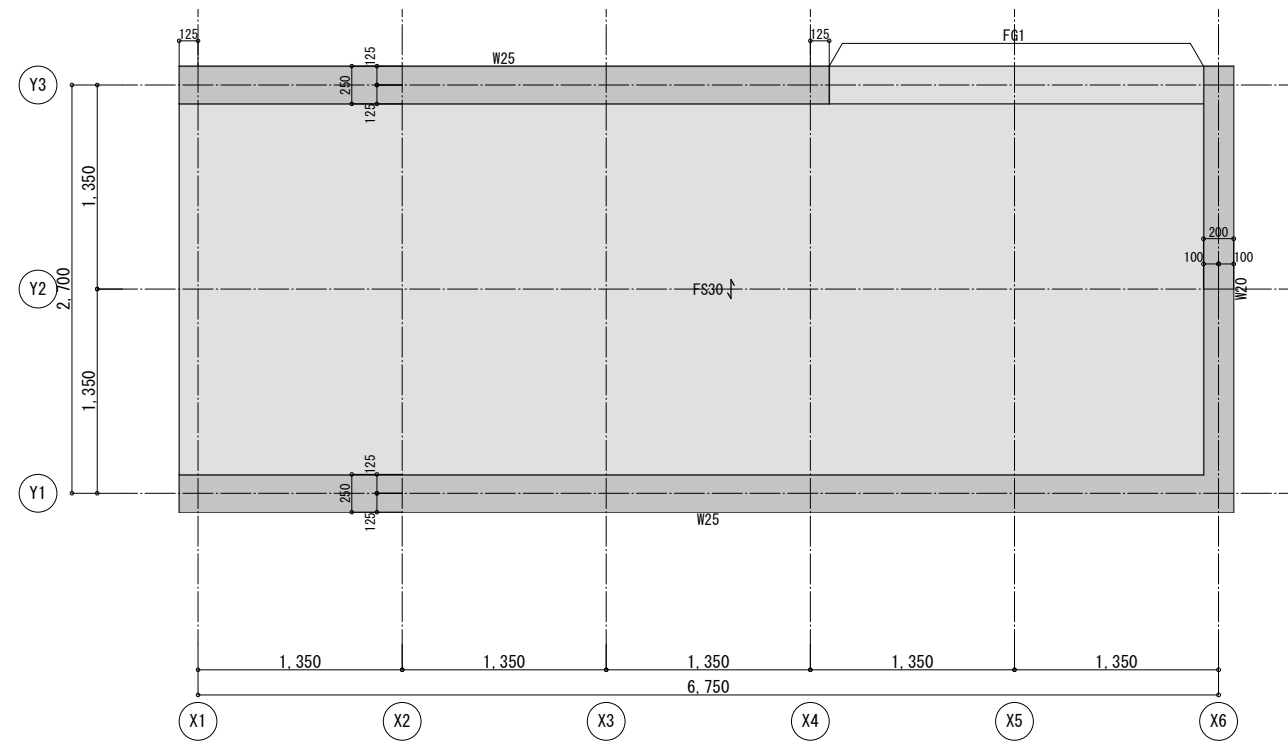


- D. 間柱と横架材

- 上部ほぞ差し、下部突き付け + N75釘2本斜め打ち
- 上部大れ + N75釘2本斜め打ち、下部突き付け + N75釘2本斜め打ち
- 上部、下部とも深さ3(mm)程度大入れ + N75釘2本斜め打ち

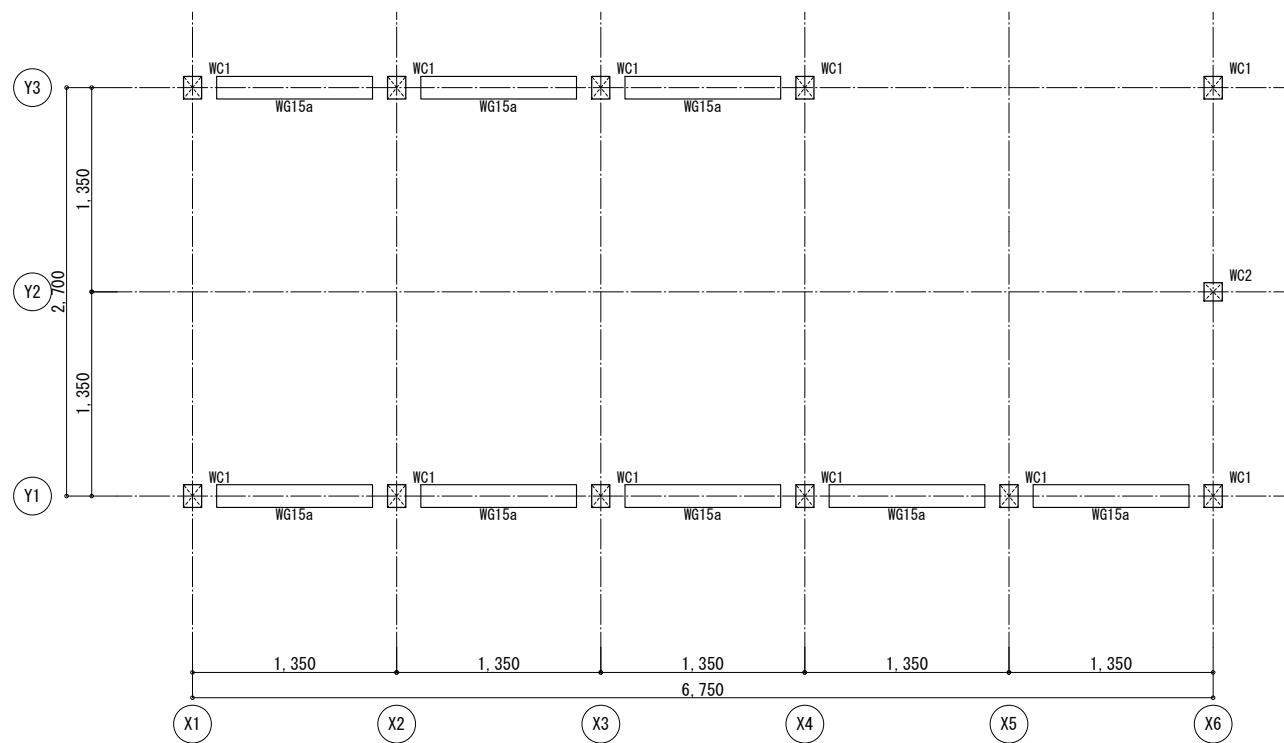
符号	は	に
耐力	5.07(kN)	5.88(kN)
名称	かど金物(1字型金物)	かど金物(V字型金物、山形金物)
詳細	<p>かど金物 CP-T 太め釘 ZN65×10</p> <p>2枚の接合面が釘孔間隔の中心となるように取り付ける。</p>	<p>柱目受材: 45×90(mm)以上 仕口: 突きつけの上N90釘2本斜め留め かど金物 VP 太め釘 ZN65×8</p> <p>中心線と木材の接合面を一致させる。</p> <p>太め釘ZN65が割れやすい。施工時は下孔を空けておく。</p> <p>両側りがある場合、上下逆にする。</p>
符号	は	に
耐力	8.5(kN)	10.0(kN)
名称	羽子板ボルト(釘あり)	短冊金物(釘あり)
詳細	<p>羽子板ボルト SB-F, SB-E 六角ボルト 1-M12 スクリーン釘 ZS50×1</p> <p>耐震のせいが大きく施工が困難な場合は、両引き羽子板ボルト(Zマーク表示金物同等認定品)を使用する。</p>	<p>短冊金物 S(釘なし) 六角ボルト 2-M12</p> <p>柱の小口からM12の孔芯までの距離が90mm以上となるものを使用する。</p> <p>耐震のせいが大きく施工が困難な場合、もしくは、構造用面材にボルト頭が干渉する場合は、両引き羽子板ボルト(Zマーク表示金物同等認定品)を使用する。</p> <p>F2(フラット)タイプで、ボルト孔が材に逆接して施工性が悪い場合や角金物が材に干渉する場合は、E2(腰高)タイプとする。</p>
符号	は	に
耐力	10.0(kN)	15.0(kN)
名称	10kN引寄せ金物	15kN引寄せ金物
詳細	<p>引寄せ金物 HD-B10</p> <p>六角ボルト 2-M12 座金付きボルト M16W</p> <p>図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれかを使用しても良い。 <input type="checkbox"/> HD-B10(幅広ボルト) 六角ボルト 2-M12 <input type="checkbox"/> HD-N10(幅広釘) 太め釘 ZN60×10 <input type="checkbox"/> S-HD10(細身ボルト) 六角ボルト 2-M12</p>	<p>引寄せ金物 HD-B15</p> <p>六角ボルト 3-M12 アンカーボルト 1-M16</p> <p>図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれかを使用しても良い。 <input type="checkbox"/> HD-B15(幅広ボルト) 六角ボルト 3-M12 <input type="checkbox"/> HD-N15(幅広釘) 太め釘 ZN60×16 <input type="checkbox"/> S-HD15(細身ボルト) 六角ボルト 3-M12</p>
符号	ち	り
耐力	20.0(kN)	25.0(kN)
名称	20kN引寄せ金物	25kN引寄せ金物
詳細	<p>引寄せ金物 HD-B20</p> <p>六角ボルト 4-M12 アンカーボルト 1-M16</p> <p>図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれかを使用しても良い。 <input type="checkbox"/> HD-B20(幅広ボルト) 六角ボルト 4-M12 <input type="checkbox"/> HD-N20(幅広釘) 太め釘 ZN60×20 <input type="checkbox"/> S-HD20(細身ボルト) 六角ボルト 4-M12</p>	<p>引寄せ金物 HD-B25</p> <p>六角ボルト 5-M12 アンカーボルト 1-M16</p> <p>図はHD-Bタイプを示すが、以下のいずれかを使用しても良い。 <input type="checkbox"/> HD-B25(幅広ボルト) 六角ボルト 5-M12 <input type="checkbox"/> HD-N25(幅広釘) 太め釘 ZN60×26 <input type="checkbox"/> S-HD25(細身ボルト) 六角ボルト 5-M12</p>
符号	ぬ	る
耐力	30.0(kN)	40.0(kN)
名称	15kN引寄せ金物×2	20kN引寄せ金物×2
詳細	<p>引寄せ金物が正対する場合</p> <p>引寄せ金物が直交する場合</p> <p>接合具を共有するように、高さを変える。</p> <p>接合具が干渉しないように、高さを45mmずらす。</p>	<p>接合具が共有するように、高さを変える。</p> <p>接合具が干渉しないように、高さを45mmずらす。</p>

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山園立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事
工事場所	新潟県妙高市関川 笹ヶ峰駐車場北
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所
公園名称	妙高戸隠連山園立公園
図面名称	木標準図(2)
縮尺	-
図面番号	2S06
設計者	名称 (有)金箱構造設計事務所
資格者氏名	金箱 温春
登録番号	一級建築士 大泉登録 第122854号
所在地	一級建築士事務所 東京都港区 第36591号



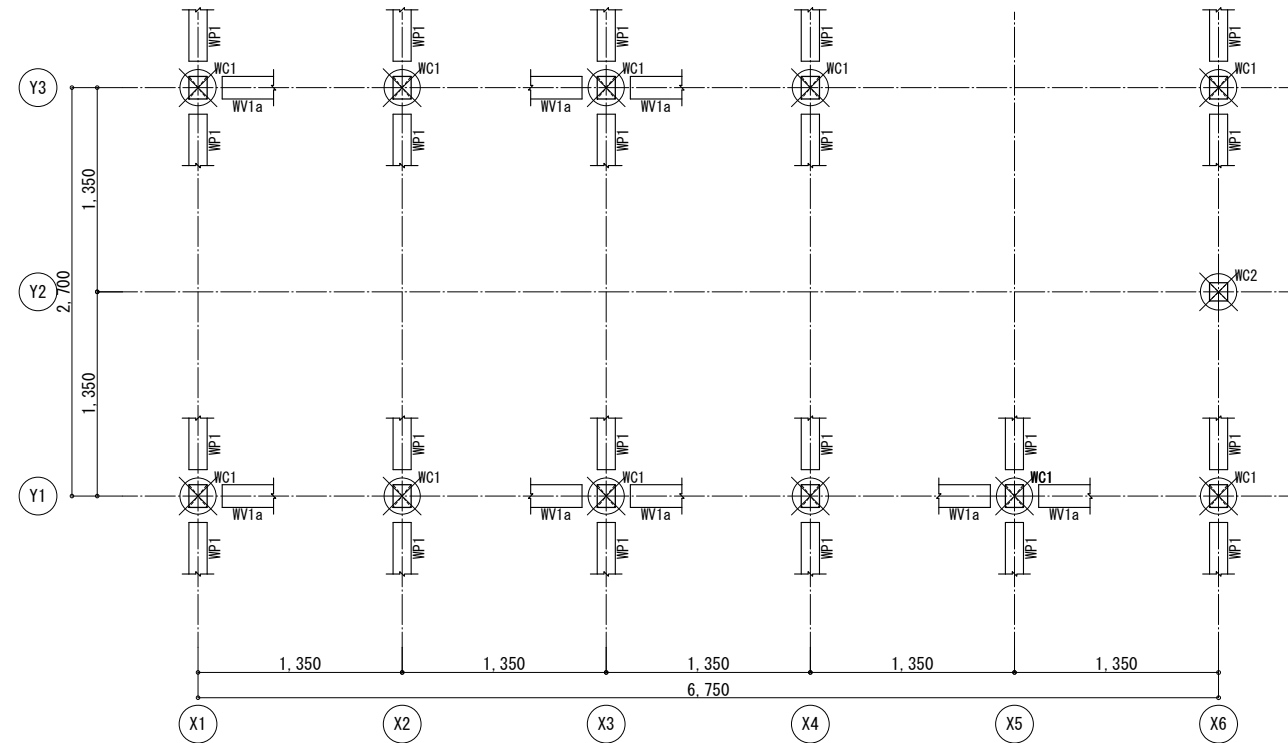
RC造伏図

- ・基礎下端 = 基礎梁下端 = SGL - 600
- ・SL = SGL + 10
- ・外周部のRC壁の上端レベルは SGL + 1.600 とする。



木造伏図(1)

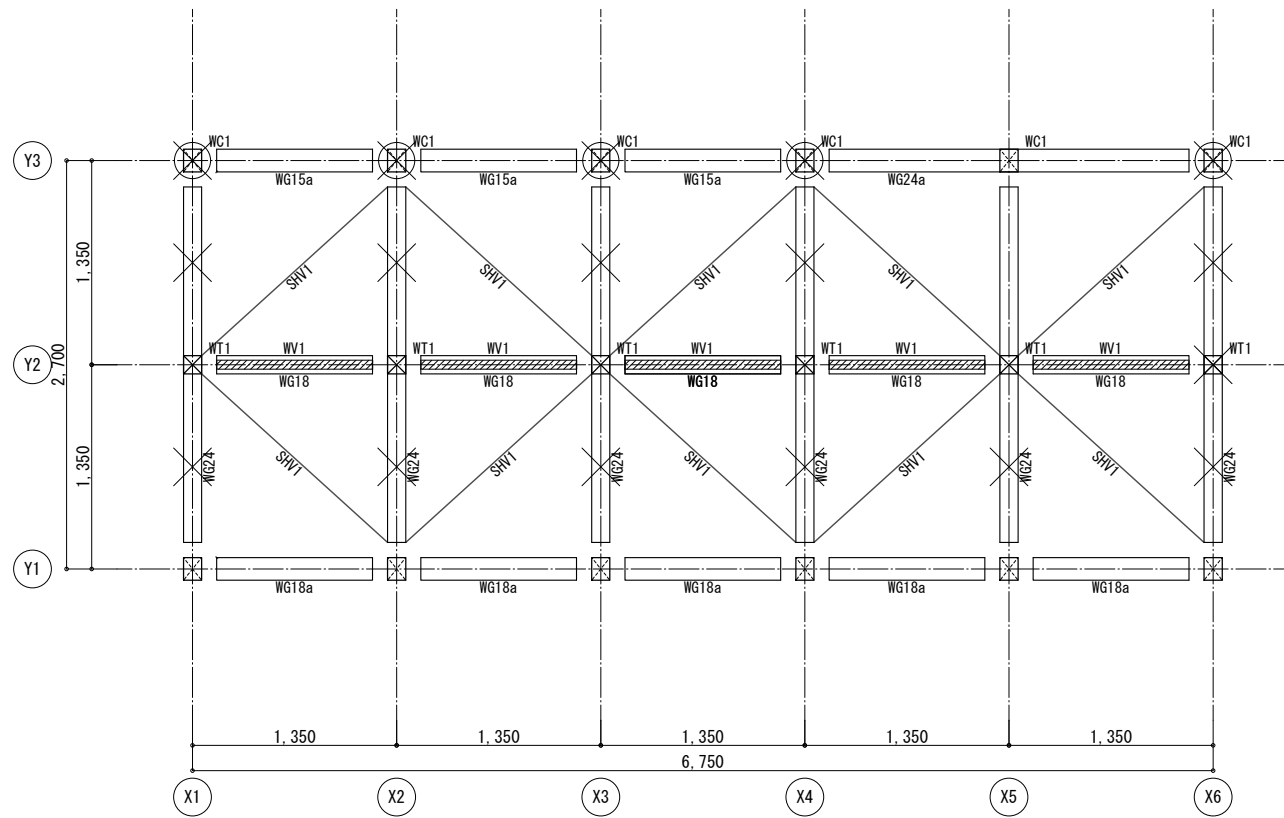
- ・梁下端レベルは SGL + 1.750 とする。



木造伏図(2)

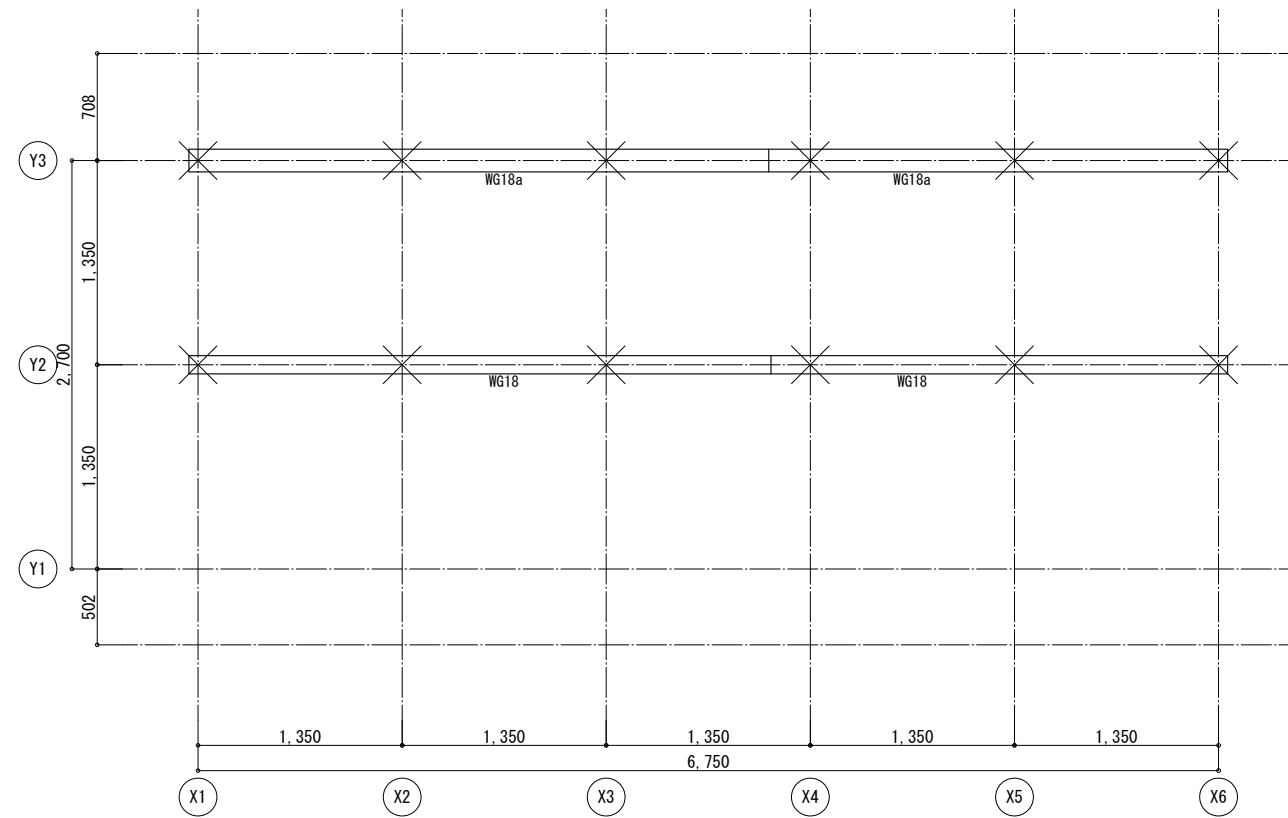
- ・方杖WP1の下端レベルは SGL + 1.750 とする。
- ・⊗ は通し柱位置を示す。

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	図面名称	妙高VC座 伏図(1)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	1/50(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S07
検査	設計者	名称	(有)金箱構造設計事務所
		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 第122854号 大臣登録
		所在地	一級建築士事務所 第36501号 東京都知事登録



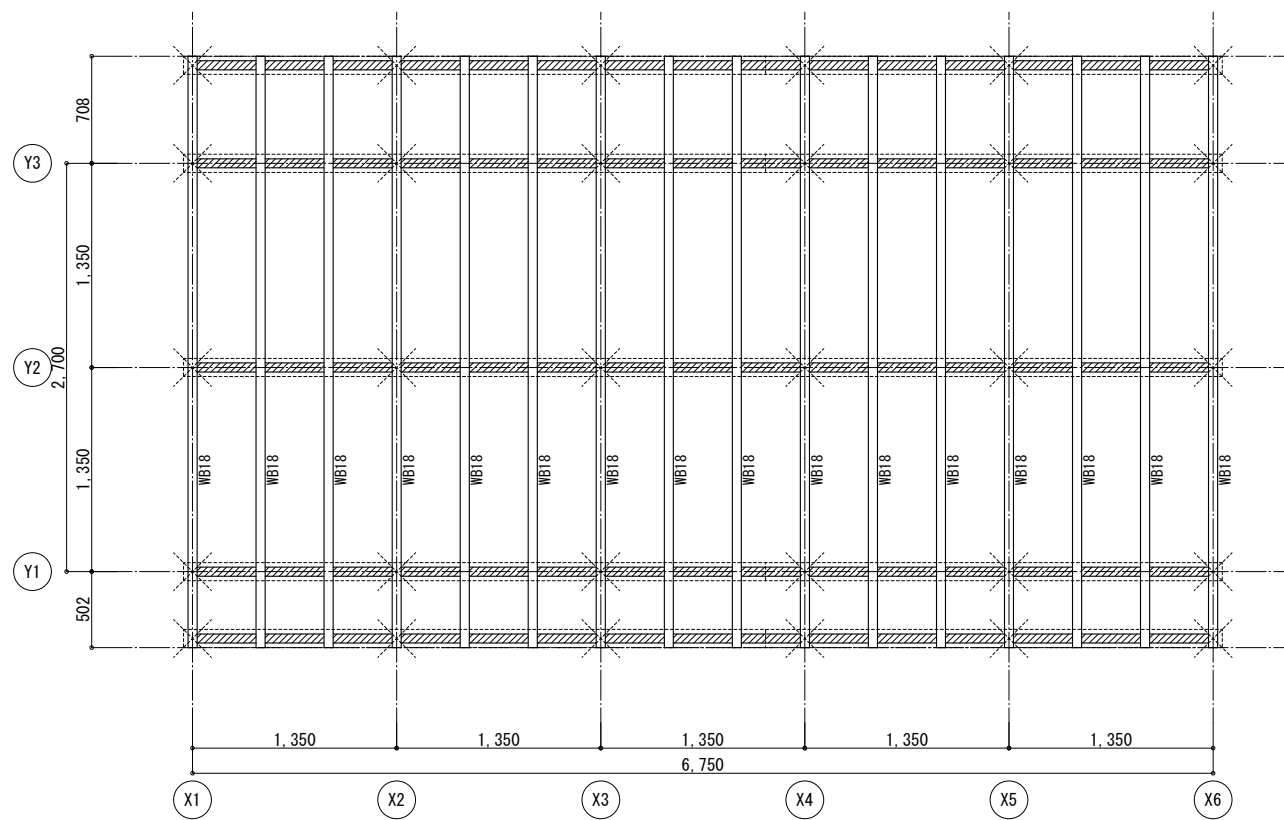
屋根伏図(1)

- ・ 梁上端 = SGL + 3.065
- ・ × は梁下の方杖、柱位置を示す。
- ・ ⊗ は通し柱位置を示す。



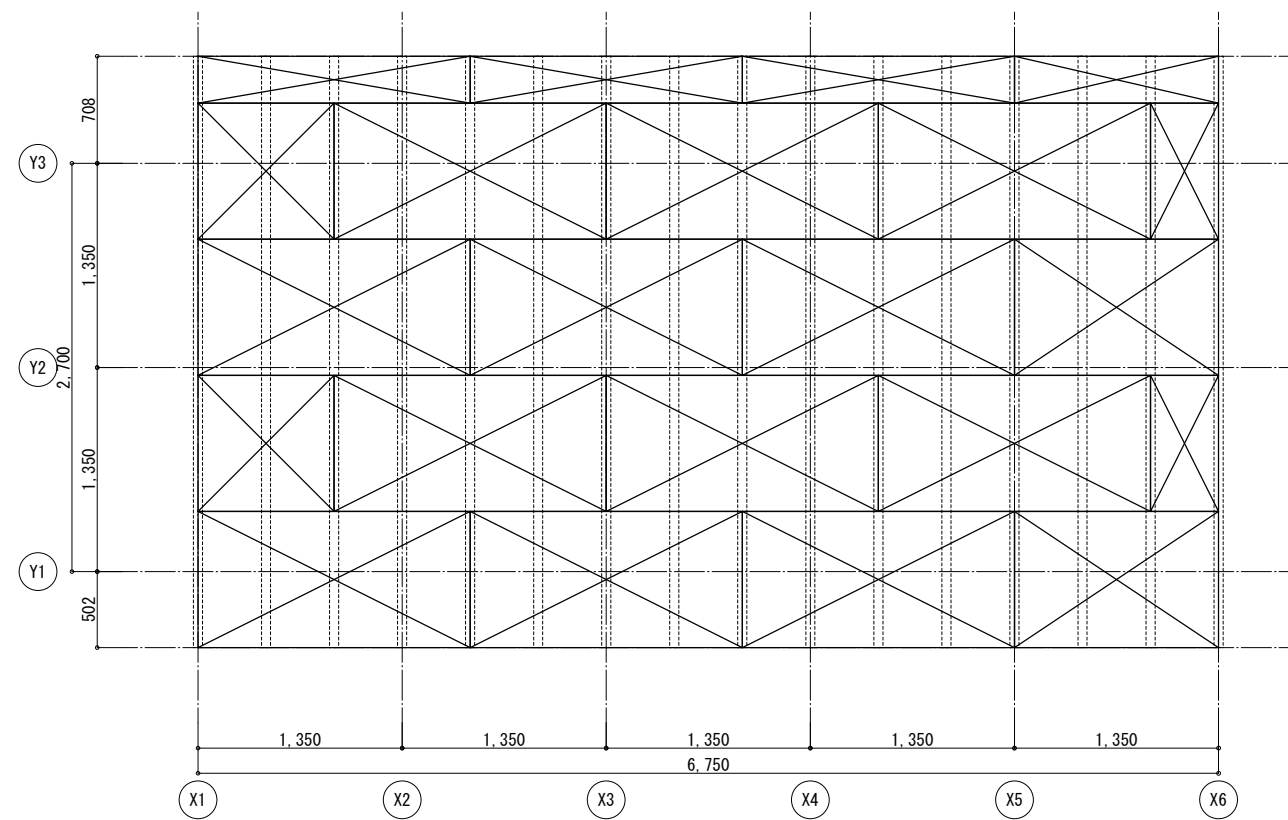
屋根伏図(2)

- ・ 梁上端(Y2通り) = SGL + 3.373
- ・ 梁上端(Y3通り) = SL + 3.981
- ・ × は梁下の方杖、柱位置を示す。



屋根伏図(3)

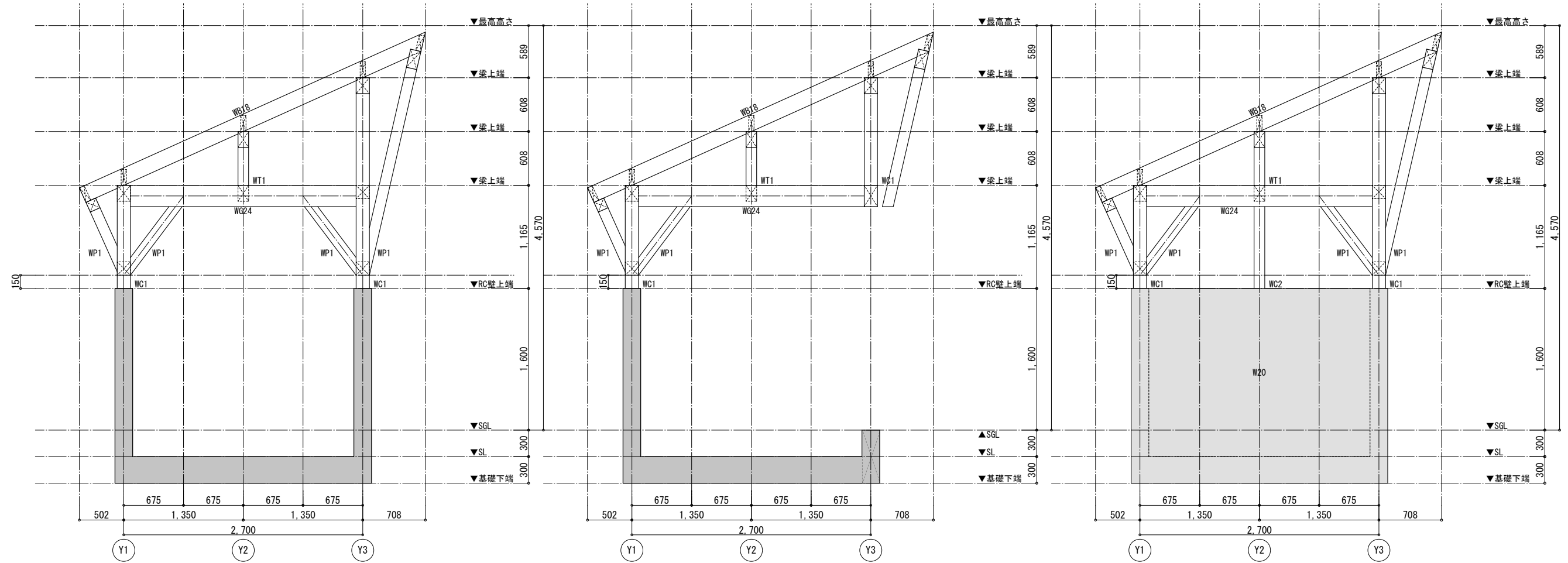
- ・ 最高高さ = SGL + 4.570
- ・ 垂木(WB18)の下端レベルは以下の通り
Y1通り = SGL + 2.765
Y2通り = SGL + 3.373
Y3通り = SGL + 3.981
- ・ は転び止め(垂木と同材)を示す。



屋根合板配置図

- ・ 垂木上に設ける構造用合板はt24(川)の字釘打ち(CN75@150)とする。

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事	図面名称	妙高VC座 伏図(2)
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	縮尺	1/50(A3)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	図面番号	2S08
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	設計者	名称 (有)金箱構造設計事務所
検査		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 第122854号 大匠登録
		所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号

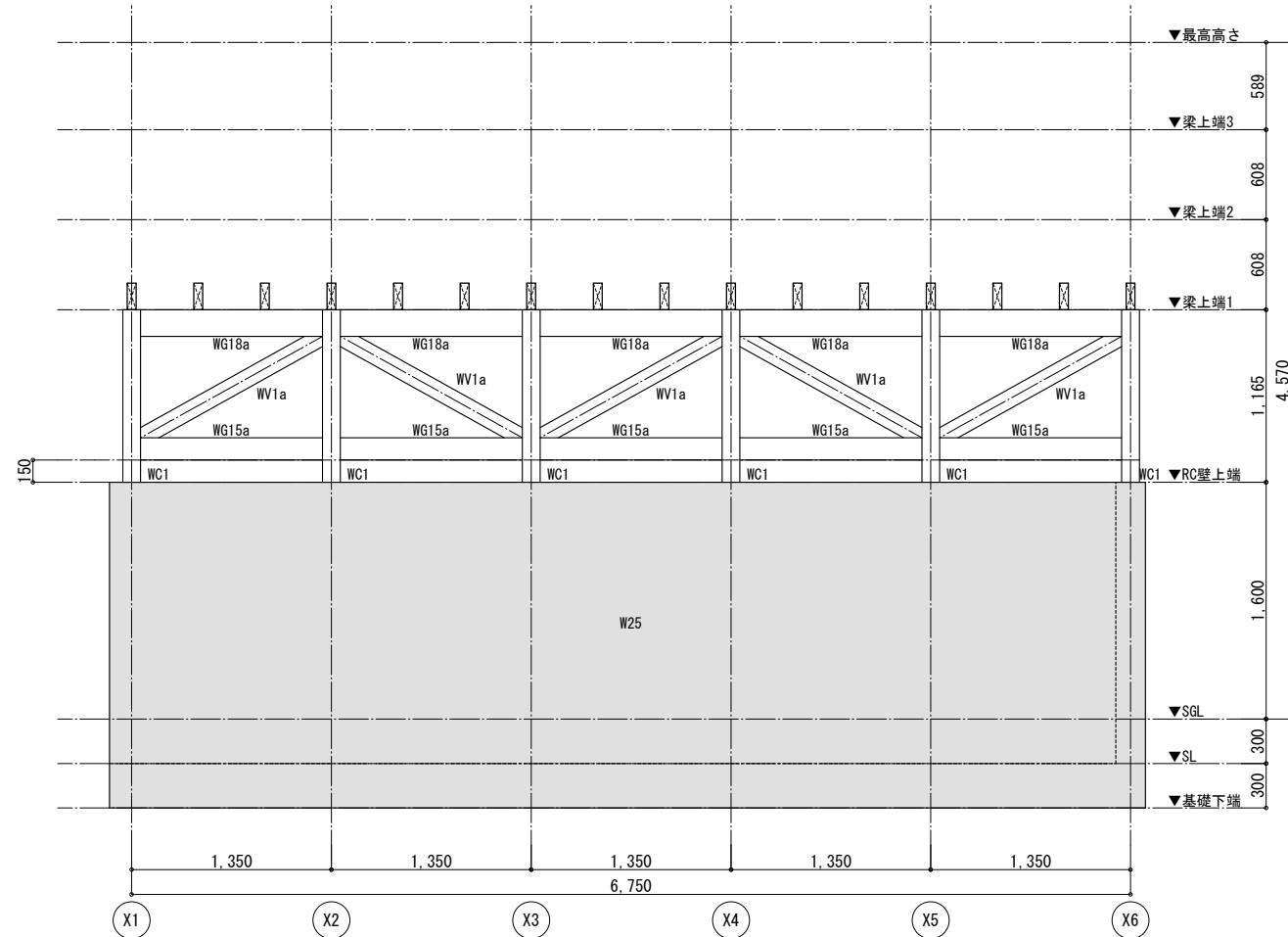


X1, X2, X3, X4通り軸組図

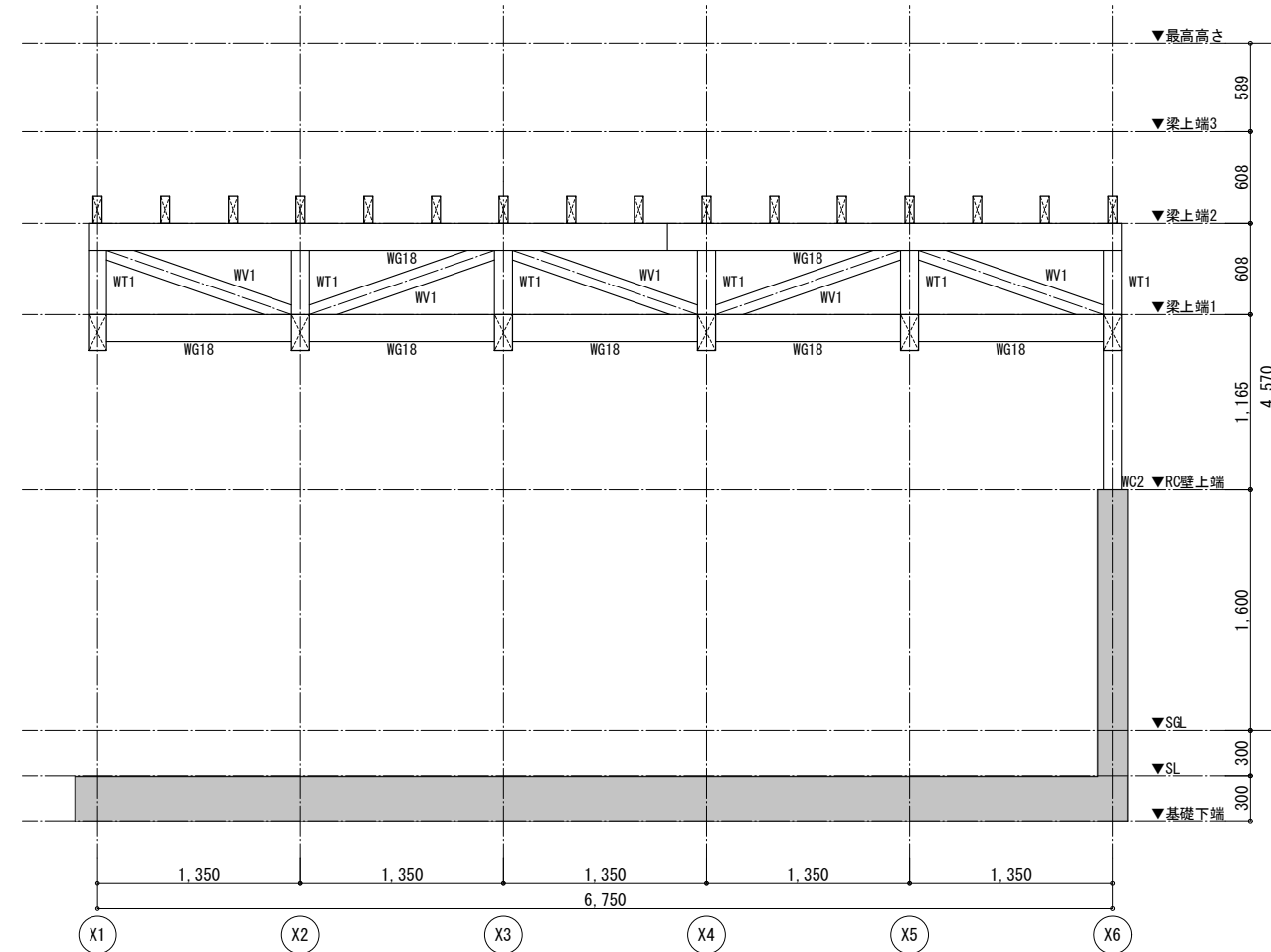
X5通り軸組図

X6通り軸組図

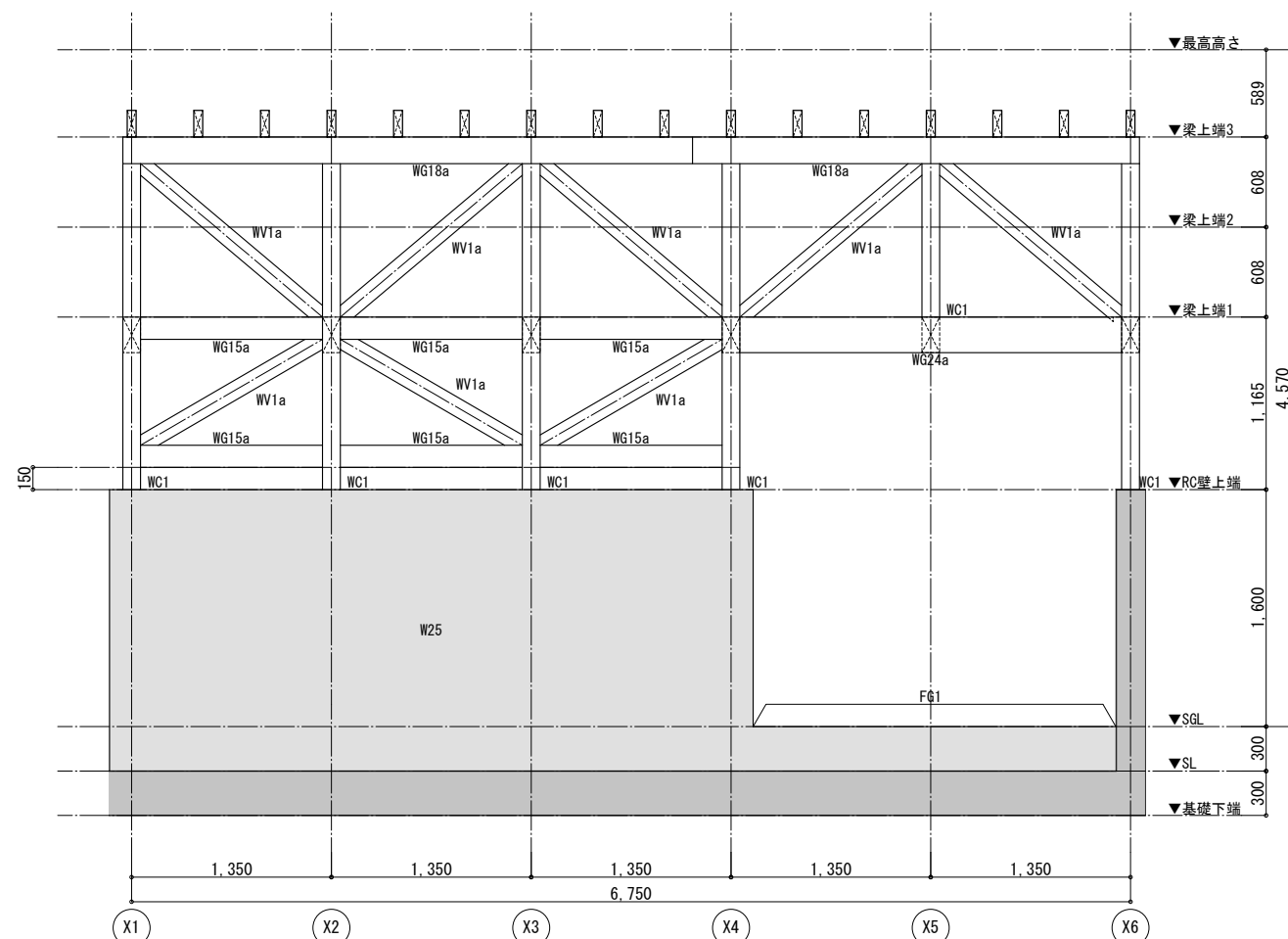
工事名称	令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	図面名称	妙高VC庇 軸組図(1)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	1/50(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S09
検査	設計者	名称	(有)金箱構造設計事務所
		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 第122854号 大臣登録
		所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号



Y1通り軸組図



Y2通り軸組図




Y3通り軸組図

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	図面名称	妙高VC庇 軸組図(2)
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	1/50(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S10
検査	設計者	名称	(有)金箱構造設計事務所
		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 第122854号 大臣登録
		所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36501号

スラブ 断面表 A1:1/30

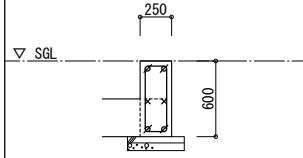
特記事項
・地業は敷砂利t60、捨てコンt50とする

符号	FS30
断面	
備考	-

符号	
断面	
備考	-

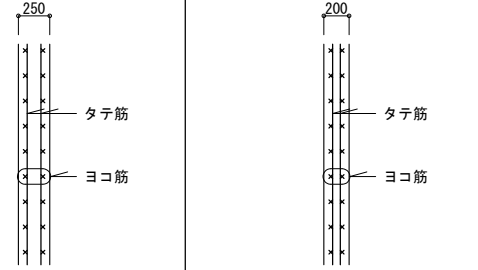
基礎梁 断面表 A1:1/30

特記事項
・幅止め筋はD10@1000とする
・地業は敷砂利t60、捨てコンt50とする

符号	FG1
断面位置	全断面
B x D	250 x 600
断面	
主筋	上端 2 - D16 下端 2 - D16
あばら筋	□ - D13 @200
腹筋	2 - D10
備考	-

壁 断面表

特記事項
・幅止め筋はD10@1000とする

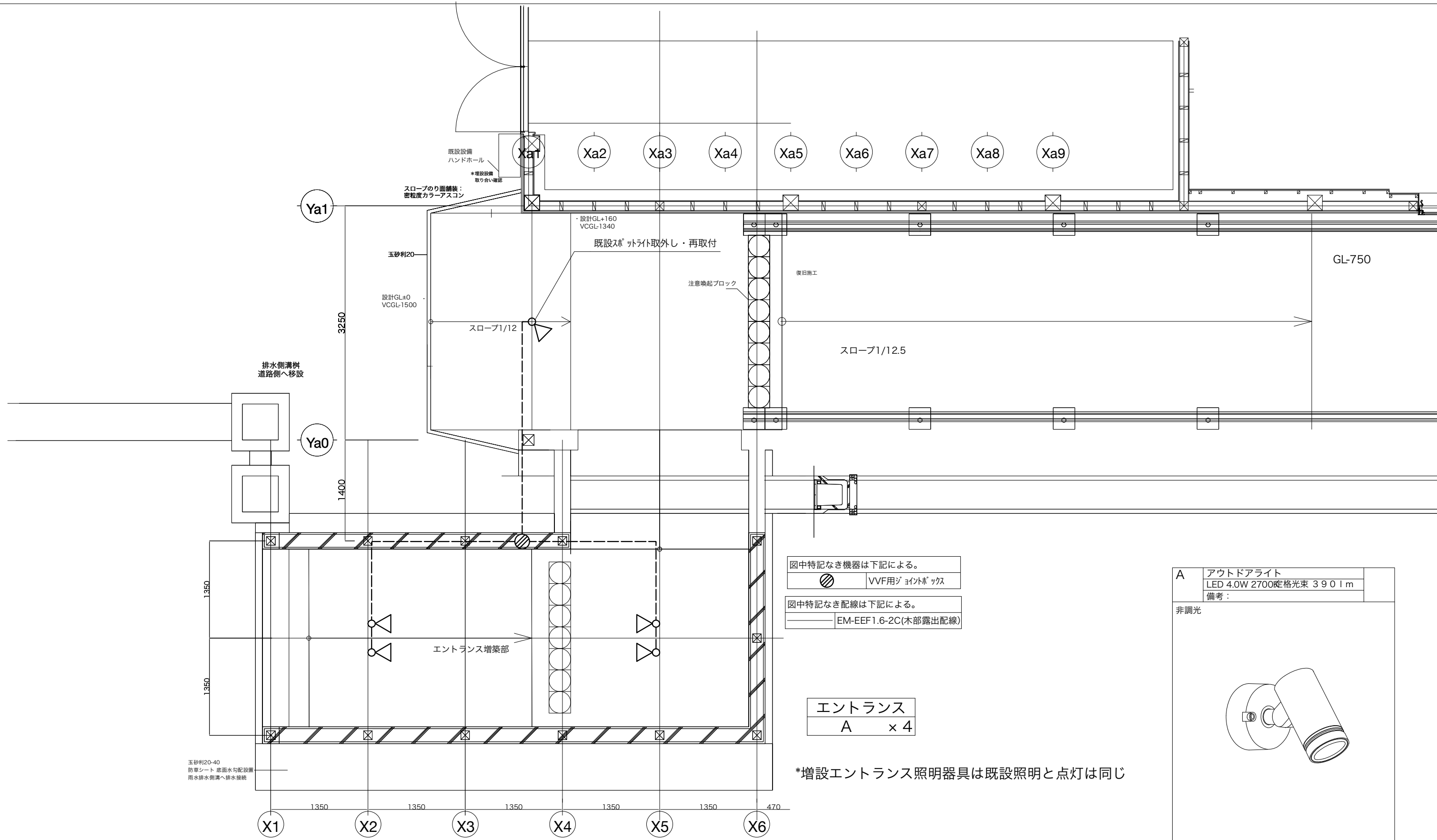
符号	W25	W20
厚さ	250	200
立断面		
壁筋	タテ筋 D16 @100 ダブル ヨコ筋 D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル D13 @200 ダブル
端部曲げ補強筋	4 - D16	4 - D16
備考	-	-

木 断面表

特記事項
・集成材の接着材仕様は、使用環境Aに対応するものとする
・集成材は監理者との協議の後、同等以上の強度・剛性を有する材種に変更してよい
・製材は含水率20%以下のKD材とする
・製材は監理者との協議の後、同等以上の強度・剛性を有する集成材としてよい

種類	符号	材質	断面 B x D	接合部仕様	備考
柱	WC1	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 150	柱頭: HDP-15 (TATSUMI) 柱脚: PBH-63 (TATSUMI)	-
	WC2	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 120	柱頭: HDP-15 (TATSUMI) 柱脚: PBH-63 (TATSUMI)	-
束材	WT1	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 120	柱頭柱脚: HDP-20 (TATSUMI)	
方杖	WP1	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 120	大入れ+2-PX8-280 (パネリードX)	
斜材	WV1	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 120	ほぞ + BLT M16	
	WV1a	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	150 x 120	ほぞ + BLT M16	
梁	WG24	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 240	登り梁-外周柱: TH-24 (TATSUMI)	継ぎ手: 大入れ蟻掛+引きボルトM12
	WG24a	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	150 x 240	TH-24 (TATSUMI)	-
	WG18	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	120 x 180	TH-18 (TATSUMI)	継ぎ手: 大入れ蟻掛+引きボルトM12
	WG18a	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	150 x 180	TH-18 (TATSUMI)	継ぎ手: 大入れ蟻掛+引きボルトM12
	WG15a	構造用集成材 カラマツ E95-F270 (対称異等級)	150 x 150	TH-10 (TATSUMI)	
垂木	WB18	構造用製材 スギE70	60 x 180	タルキック 1-TK5-165 II (SYNEGIC)	-
垂木転び止め	-	構造用製材 スギE70	60 x 180	梁に4-N75斜め打ち	
構造用合板(屋根)	-	JAS 1級 (特類, C-D)	t24	川の字釘打ち CN75 @150	-
鉄骨水平ブレース	SHV1	コボットブレース	丸鋼φ10	製品の使用に準拠する	-

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248?4	図面名称	妙高VC庇 断面表
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	1/60(A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	2S11
検査	資格者氏名	名称	(有)金箱構造設計事務所
		資格者氏名	金箱 温春
		登録番号	一級建築士 大野 登雄 第122854号
		所在地	一級建築士事務所 東京都知事登録 第36591号



- 図中特記なき機器は下記による。
- VVF用ジョイントボックス
- 図中特記なき配線は下記による。
- EM-EEF1.6-2C(木部露出配線)

エントランス
A x 4

*増設エントランス照明器具は既設照明と点灯は同じ

A	アウトドアライト
	LED 4.0W 2700K 定格光束 390lm
備考:	
非調光	
DOL-5724YBG 大光相当品	

工事名称	令和8年度妙高戸隠連山国立公園妙高原ビジターセンターエントランス改修工事		
工事場所	新潟県妙高市関川2248-4	図面名称	妙高VC庇 改修後電灯設備図
発注機関	中部地方環境事務所 信越自然環境事務所	縮尺	1/50 (A3)
公園名称	妙高戸隠連山国立公園	図面番号	E-01
設計者氏名	(有)金箱構造設計事務所		
資格者氏名	金箱 温春		
登録番号	一級建築士 第122854号	所在地	東京都港区
	二級建築士事務所 第36591号		